

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成23年11月17日 (2011.11.17)

【公開番号】特開2010-87998(P2010-87998A)

【公開日】平成22年4月15日 (2010.4.15)

【年通号数】公開・登録公報2010-015

【出願番号】特願2008-256805(P2008-256805)

【国際特許分類】

H 0 4 N 5/225 (2006.01)

H 0 4 N 5/232 (2006.01)

G 0 3 B 17/02 (2006.01)

G 0 3 B 17/18 (2006.01)

G 0 2 B 7/36 (2006.01)

G 0 2 B 7/28 (2006.01)

G 0 3 B 13/36 (2006.01)

G 0 3 B 15/00 (2006.01)

G 0 3 B 17/38 (2006.01)

H 0 4 N 101/00 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 5/225 Z

H 0 4 N 5/232 A

H 0 4 N 5/232 Z

G 0 3 B 17/02

G 0 3 B 17/18 Z

G 0 2 B 7/11 D

G 0 2 B 7/11 N

G 0 3 B 3/00 A

G 0 3 B 15/00 R

G 0 3 B 15/00 Q

G 0 3 B 17/38 B

H 0 4 N 101:00

【手続補正書】

【提出日】平成23年9月30日 (2011.9.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

撮像素子と、前記撮像素子に光学像を結像するレンズユニットと、前記レンズユニットを駆動してピントの位置を制御する自動合焦手段と、前記撮像素子にて生成された画像データから予め指定された物体を認識する物体認識手段と、前記物体認識手段により認識された第一の物体による所定の動作を検出する動作検出手段と、前記動作検出手段により所定の動作が検出されたことに応じて、画像データを記録媒体に記録させる記憶手段とを有する撮像装置であって、

前記自動合焦手段は、前記動作検出手段により所定の動作が検出された場合に、前記物体認識手段により認識された第一の物体とは異なる第二の物体にピントを合わせ、

前記記憶手段は、前記第二の物体にピントを合わせた状態の画像データを前記記録媒体に記録させることを特徴とする撮像装置。

【請求項 2】

画像表示部と、

前記画像表示部に表示される画像から、ユーザによって指定された物体を検出する指定物体検出手段を更に有し、

前記物体認識手段は、前記指定物体検出手段により検出された物体を前記第一の物体として認識することを特徴とする請求項 1 に記載の撮像装置。

【請求項 3】

前記物体認識手段は、前記指定物体検出手段により検出された別の物体を前記第二の物体として認識することを特徴とする請求項 2 に記載の撮像装置。

【請求項 4】

記録された動画像を再生する動画再生手段を更に有し、

前記指定物体検出手段は、前記動画再生手段により再生された動画像から、前記ユーザによって指定された物体を検出することを特徴とする請求項 2 又は 3 に記載の撮像装置。

【請求項 5】

複数の動作項目から、ユーザによって選択された動作項目を前記所定の動作として記憶する項目記憶手段を更に有することを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の撮像装置。

【請求項 6】

撮像素子と、前記撮像素子に光学像を結像するレンズユニットと、前記レンズユニットを駆動してピントの位置を制御する自動合焦手段と、前記撮像素子にて生成された画像データから予め指定された物体を認識する物体認識手段と、前記物体認識手段により認識された第一の物体による所定の動作を検出する動作検出手段と、前記動作検出手段により所定の動作が検出されたことに応じて、画像データを記録媒体に記録させる記憶手段とを有する撮像装置の制御方法であって、

前記自動合焦手段が、前記動作検出手段により所定の動作が検出された場合に、前記物体認識手段により認識された第一の物体とは異なる第二の物体にピントを合わせるステップと、

前記記憶手段が、前記第二の物体にピントを合わせた状態の画像データを前記記録媒体に記録させるステップを有することを特徴とする撮像装置の制御方法。

【請求項 7】

請求項 6 に記載の撮像装置の制御方法をコンピュータに実行させるためのプログラム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】撮像装置、その制御方法及びプログラム

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

本発明は、所定の物体にピントを合わせることができる撮像装置、その制御方法及びプログラムに関するものである。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明の撮像装置は、撮像素子と、前記撮像素子に光学像を結像するレンズユニットと、前記レンズユニットを駆動してピントの位置を制御する自動合焦手段と、前記撮像素子にて生成された画像データから予め指定された物体を認識する物体認識手段と、前記物体認識手段により認識された第一の物体による所定の動作を検出する動作検出手段と、前記動作検出手段により所定の動作が検出されたことに応じて、画像データを記録媒体に記録させる記憶手段とを有する撮像装置であって、前記自動合焦手段は、前記動作検出手段により所定の動作が検出された場合に、前記物体認識手段により認識された第一の物体とは異なる第二の物体にピントを合わせ、前記記憶手段は、前記第二の物体にピントを合わせた状態の画像データを前記記録媒体に記録させることを特徴とする。

また、本発明の制御方法は、撮像素子と、前記撮像素子に光学像を結像するレンズユニットと、前記レンズユニットを駆動してピントの位置を制御する自動合焦手段と、前記撮像素子にて生成された画像データから予め指定された物体を認識する物体認識手段と、前記物体認識手段により認識された第一の物体による所定の動作を検出する動作検出手段と、前記動作検出手段により所定の動作が検出されたことに応じて、画像データを記録媒体に記録させる記憶手段とを有する撮像装置の制御方法であって、前記自動合焦手段が、前記動作検出手段により所定の動作が検出された場合に、前記物体認識手段により認識された第一の物体とは異なる第二の物体にピントを合わせるステップと、前記記憶手段が、前記第二の物体にピントを合わせた状態の画像データを前記記録媒体に記録させるステップを有することを特徴とする。

また、本発明のプログラムは、上述した撮像装置の制御方法をコンピュータに実行させるためのプログラムである。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0064

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0064】

なお、上述した実施形態における撮像装置を構成する各手段、並びに制御方法の各ステップは、撮像装置（コンピュータ）のRAMやROM等に記憶されたプログラムが動作することによって実現できる。このプログラム及びこのプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体は本発明に含まれる。